



地区役員会での話題提供 年3回（①6.24 ②11.24 できず ③1.24）

→ 「防災教育連絡会議」につながっていくことを期待。

○運動会をする中に、防災に関する演技種目を含んでもらう予定であったが、実現させるところまではいかなかった。

・PTAでは、氷上西高校の先例に倣ってプログラム化するところまで学校で先導したが、実現しなかった。来年度は実現したいと願っている。

・自治会においては、山南町の和田地域において自治会で取り組んでおられる例があるので、今後、実施を考える時には、こちらも参考になると予想する。（和田地域づくりセンター）

防災の取組は、子どもだけではなく、保護者や地域住民と一体となった取組となることが望ましい。なんとかそうした機会を作りたいので、学校と一緒に考えていただけるとありがたい。

PTAか自治会か、どちらか1つの実行でよいが、被害地域であるという当地の現状を考える時、自治会での取り組みがなされることが望ましいかもしれない。

#### 【成果】

○防災授業に取り組めた。研究授業を2回行い、参観日に全校授業も行って、保護者や地域に対しても啓発することができた。

○地域と連携するという点について、昨年度以上の成果をあげることができた。

・ゲストティーチャーとして地元の多数の方々にご協力いただき、身近で顔の見える関係性の中で、防災教育を行うことができています。こうした積極的な交流によって、様々な機関や地元団体の方々との関係性が、一層深くなっている。（・クラブ活動での参加 ・新たな方々の開拓）

→ 防災教育のみならず、ふるさとに対する愛着と誇りを身につけていける取組となった。

災害時に苦勞を乗り越えていかれたことを改めて聞き知り、また、復興にかける地域の方々の思いや取組を実際に学んでおり、まさに「ふるさと教育」そのものである。

・参観日や学校朝会、またオープンスクールなど、保護者や地域の方の来校時に防災に関する取組を行って、地域周知することができた。

・防災学習や防災授業の取組を、通信やHPなどを通じて周知することができた。

○教育課程の中に組み入れる下地が完成した。昨年度は、計画的な組み込みができるかどうか、また、内容の精度をあげていくことが課題だったが、3年生の総合的な学習の時間で取り組むこととし、全校実施するものとは区別をすることで、先の課題を解消し、負担感も減少させることができた。

○本校や丹波市の受けた豪雨災害の経験が、シーズアジア等の協力を得て、市内全ての学校で学ばれる教材（紙媒体【昨年度】・DVD【本年度】）として資料化されている。（本校出身中学生の活躍）

#### 【課題】

○各学年の教科の中にある防災関連の内容を一覧表にまとめはしたが、実際の取組管理は、担任に任せられていた。地域防災に関する知識・技能や復興への意欲及び態度の形成につなげられそうな教材があるときには、教科学習においても実施していくことで、生活化しやすくなると考えている。6年という時間の中で、防災の面でどのような力をつけようとしているのか「見える化する」ためにも、作った表を発展的に活用していくことが必要である。（全体計画の作成）